



# 思考への探求

校内研究だより

令和6年6月25日

No.( 1 )

## 学ぶこと・考えることを楽しむ

～全教科で育てる「言葉の力」

思いを伝え受けとめ(個別最適な学び)ともに学ぶ(協働的な学び)子どもの育成～



本校では今年度、昨年度からの研究主題「学ぶこと・考えることを楽しむ」の2か年計画の2年目として、全教科で取り組んでいる。

6月25日に、今年度第1回目の校内研究授業が行われた。6年1組にて「社会科」での大塚教諭の実践で、「大仏を造ることができたのはどうしてだろうか。」というめあてのもと授業が行われた。社会的不安を抱えていたという時代背景のもとに、天皇の力の大きさや、人々の思いに迫ることをねらって展開された。

授業では、大仏の手のひらの実物大モデルやお身拭いの動画などの資料で大きさを体感しつつ、人や材料、土地など大仏造りに必要なものやことは何だったのかを調べていた。さらに、調べたことをカードに書き、項目ごとにホワイトボードに貼る活動をしたことで、全体で共有することができた。まとめとして、「大仏を造ることができたのはどうしてか」をノートに書き、当時の人々の思いについて、子どもたちそれぞれが考えることができた。

研究協議会では、東京学芸大学附属世田谷小学校の岸野存宏先生をお迎えし、授業と協議会の指導・講評をいただいた。まず、参加した教諭たちから、今回の大塚教諭の授業に関する質問や授業の感想をまとめて意見を発表した。その中には、本時のめあての設定や、教具としてのカードの扱いなどについて意見が出て、大塚教諭が答えていた。



その後、岸野先生からは、今回の授業での子どもたちの姿をもとに、授業の講評をいただいた。最初に、協働的な学びを作っていく例として、コーヒーを飲む理由について挙げられ、「誰が何というかわからない、

正解がない答えを言うとき、協働的な学びになるのではないか」というお話を伺った。また問題解決的学習である社会科の授業の中で、問いを更新していけるような授業展開の工夫のアイデアをご教示いただいた。最後に研究副主題に関連し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の違いについて、授業をどのように設定すればよいかをご指導いただいた。

今回の大塚教諭の授業を通した学びを生かし、文教大学附属小学校全体で授業の質を高めていきたい。

